



# とらいあんぐる



2014 年 1 0 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「共に生きる」

先週、長年、いっしょに暮してきたネコが、天国に旅立ちました。

この1年、病気に苦しみ、この世とあの世の境を行ったり来たりでした。

行こうか・・・もう少しがんばろうか・・・苦しい思いをしながらも、追いつがる私のために、がんばってこの世にとどまってくれていたのかもしれない。

ですので、「やれやれ、やっと解放されたよ」と、ネコ自身は、案外ほっとしているかもしれません。

それでも私は、「もう少しそばにいてほしかった・・・」と、思ってしまいます。勝手かもしれません。

私の家には、ネコが10匹いたのですが、これで9匹になってしまいました。

「まだ9匹もいるの?!」と、多くの方は驚かれるでしょう。

「あと9匹もいるのなら、さびしくないでしょう」と思われるかもしれませんが。

しかし、それは違います。

10匹いても、1匹にかける愛情が、10分の1になるわけではありません。

1×10となり、ネコへの愛情は、単純に10倍になります。

失ったネコは、1匹しかいませんでした。ほかに何十匹いようと、悲しみは変わらないものです。

今、それを痛感しています。

旅立ったネコは、娘のキョウコより、2歳年上の17歳でした。

「ネコにしては、大往生でしょう」と思われる方もいるかもしれません。

しかし現在、私の家のネコたちの中で、もっとも年長のネコは、25歳です。1年おくらせて生まれた妹ネコ、弟ネコも、すでに24歳になりました。

さすがに、20歳をこえたネコたちは、老境に入り、少しだけ食べて少しだけ動く、静かな生活になっています。

そんな中、17歳は、まだまだ“若手”でした。病気さえしなければ、元気だったはずです。

「まだ17歳だったのに・・・」と、残念でなりません。

ネコたちとの別れは突然です。

が、出会いは、もっと突然です。

ネコたちとの出会いは、神様から与えられたかのように、前ぶれなくやってきます。

10匹もネコがいますと、「よほどネコが好きなんですわ」と、よくいわれます。しかし、自分ではそうとは思っていません。

私がネコを飼いたくなって、「ネコを飼おう」と決心したことは、実はこれまで一度もないのです。

「このネコがいい」と、ネコを選ん

だこともありません。

気がつくと、目の前にネコがいて、飼わざるをえない状況になっているのです。いきなり決断をせまられています。いつも、そうです。

私はこれまで生きてきた中で、ネコを飼わざるをえない状況に、20回以上おちいって、そのたびに、ネコが増えていきました。そういう運命と思うしかありません。

すでに天国に旅立ったネコたちを含めると、のべ20匹以上のネコが、私といっしょに暮らしてくれたこととなります。

17年前の暑い夏の日の朝。

私の家によく来てくれる銀行員のMさんが、突然たずねてこられました。Mさんは、外回り担当の人です。

その日、約束はしていません。

Mさんは、なぜかとても混乱していて、なかなか言葉が出ません。滝のように汗をかいて、息が切れています。

ネズミのおもちゃのようなものを、両手で包みこむようにして、玄関先に立ちつくしていました。

よく見ると、ネズミではなく、生まれたばかりの子ネコでした。さらによく見ると、おもちゃではなく、かすかに息をしていました。

しかしその子ネコは、もはや虫の息で、動くことも声を出すこともできません。

「ぼくは・・・ぼくは・・・どうしたら良いのでしょうか！！」

私も同じセリフを返したい思いでした。

Mさんの話を整理してみますと、以下のような成り行きでした。

外回りの最中、ゴミ集積所を通りかかると、何か音がするような気がした。

注意深く、ゴミ袋をかきわけてみると、ゴミ袋の1つから、かぼそい声がきこえる。

その袋はしっかりと口をしばってあったので、破いてみた。

袋の中には、生まれたばかりの子ネコが3匹、入っていて、うち1匹だけが、声をあげていた。

残念ながら残りの2匹は、窒息死していた。

「せめて、袋の口をあけておいてくれたら良かったのに・・・」

Mさんは、怒りで身体をふるわせていました。

Mさんは、まだ息のある1匹の子ネコをつかむと、何も考えられずに走りだし、気がついたら私の家の玄関チャイムを押していたとのことでした。

何度か私の家に来てくださっていたMさんでしたから、私の家にネコがいることを、よくご存知でした。

「とにかくあそこの家に行こう」と、それだけが頭に浮かび、駆けつけたそうです。

Mさんは、外回りの最中で、お客さまとの約束の時間が迫っていました。

私は、その子ネコを受け取るしかありませんでした。

あの状況では、私でなくても、誰でも、受け取ったと思います。

Mさんは、流れる汗をぬぐうこともせず、申し訳なさそうに、何度も何度も頭を下げ、また仕事の合間に様子を見にくること、ネコの里親を探す努力をすることを約束し、走って仕事に戻りました。Mさん自身は、アパート住まいで、動物を飼うことができませんでした。

私が弱った子ネコをかかえて右往左往していると、30分後くらいに再びMさんがあらわれました。ペットショップで買った子ネコ用粉ミルクと哺乳瓶を持ってきたのです。

お世話をするアイテムまでそろってしまいました。

あの状況では、私でなくても、誰でも、お世話をしていたと思います。

子ネコは背中が黒くておなかが白く、手のひらに乗せると、おにぎりそっくりでした。大きさも、おにぎりと同じでした。

虫の息だった子ネコは、数時間後には、自分の足で立ちあがるできるようになりました。

ゴミ袋の中から生還し、小さな身体で懸命に生きようとするその姿は、光り輝くようでした。

母は、「この世に生を受けて、最初にこんなにつらい思いをした子なのだから。これから、それを補ってあまりある、幸せな一生にしてあげなくてはならないわ。もう二度とゴミ袋に入れないよう、この子が生きているかぎり、私たち家族が見守りましょう」と宣言しました。

あまりの愛らしさに手放せなくなっていた私は、それをきいてほっとしました。

一番ほっとしたのは、里親を探さなくて良かったMさんだったかもしれません。

あのあわただしい夏の日から17年です。

そのネコが共に生きてくれたこの17年、いろいろなことがありました。楽しいことがたくさんありました。

ネコとの出会いは、幸せなものであることの方が少ないものです。

ネコたちは、捨てられたり傷つけられたり、生命の危機を抱えてあらわれます。

それだけに、いっしょに暮らした時間は、かけがえのない時間です。

人間の何倍ものはやさで一生を駆け抜け、懸命に生きる姿を見せてくれるネコたちは、私にとっては、ペットとも家族とも違います。

一言でいうなら、共に生きる、人生の道づれです。 (江口 彩子)



## ◆「ピアノ・トライ」がはじまります

11月は、「ピアノ・トライ」の月です。

先日の申し込み日には、たくさんの方にお申し込みをいただきました。どうもありがとうございました。

申し込み日は過ぎましたが、日によっては、まだ若干、空きがございます。申し込みそびれてしまった方は、どうぞ遠慮なく、本部までご相談ください。比較的、早い日程には、まだ余裕があります。〔03-5966-7711：担当・矢島、伊藤〕

またこの時期は、風邪をひきやすい季節でもあり、例年、体調をくずしてしまう生徒さんが少なくありません。当日、体調が悪い場合には、後の日程に振り替えることができますので、どうぞ無理をなさらず、ご相談ください。

今年の「ピアノ・トライ」は、下記のとおりです。

### (1) 日時

11月	8日(土)	(土2・4)	初級・中級	(山本先生予定)
11月	9日(日)	(日②)	初級・中級	(夏目先生予定)
11月	16日(日)	(日①)	中級～	(夏目先生予定)
11月	24日(祝・月)	(月レッスンあり)	初級・中級	(能勢先生予定)
11月	29日(土)	(土1・3)	初級・中級	(山本先生予定)
11月	30日(日)	レッスンなし	中級～	(夏目先生予定)

※ 時間は、ご希望に応じて、個々の方にお知らせしています。

※ ごきょうだいで、進度が大きく違っていても、日時のご希望を優先して、同じ日にお組みすることができます。

### (2) 場所

バッハはうす 3階 (長崎2-3-19・長崎小学校手前)

### (3) 料金

2160円

※当日、封筒に記名し、なるべくおつりの無いようにお持ちください

#### (4) その他

当日、風邪などでお休みされる場合、本部（03-5966-7711）へご連絡ください。そのほか、お困りのこと、ご不明のことがあれば、ご遠慮なく本部にお電話ください。

ご自分用の楽譜のほか、コメンテーター用に演奏する曲のコピーをご用意ください。コピーには名前をお書きください。

コメントは、後日プリントにてお渡しします。

なお、「ル・コンセール」は、11月23日（日）と12月14日（日）におこないます。

#### ◆「音楽の集い」を開きます

11月3日（祝）の「音楽の集い」が近づいてきました。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。

出演にいたるまでには、練習時間が十分にとれないなど、おとなの方ならではのご苦勞もあれば、これまでの人生の重みや音楽への思い入れもあり、毎年、胸にしみる演奏が披露されます。子どもの生徒さんの発表会とは、一味ちがう演奏会になります。

ききにいらっしゃる方は入場無料です。ぜひお一人でも多くの方に、足をお運びいただきたいと思います。特に、「何か、楽器をはじめてみようかしら・・・」という思いが心をよぎる瞬間がおありの方、ぜひご都合をつけて、いらしてください。

会場は「ひびきホール」、13:00開場、13:30開演です。詳しいプログラムは、教室内ポスターで、おってお知らせします。



## ◆アンデルセン先生が来日します

12月に、客員教授のダイアン・アンデルセン先生が来日されます。

コンサート：12月7日（日）午後3時開演

レッスン：12月9日（火）・10日（水）

コンサートの詳細は、まだ決まっておりません。決まり次第、ポスターなどにてお知らせいたします。

レッスンの料金は、下記の通りです。

30分レッスン……レッスン料（12500円）＋通訳（2500円）→ 計15,000円

60分レッスン……レッスン料（25000円）＋通訳（5000円）→ 計30,000円

この貴重なチャンスを、一人でも多くの生徒さんがいかして下さることを願っています。なお、アンデルセン先生のレッスンを受けた方は、アンデルセン先生の推薦で、「ル・コンセール」に出演できます。

### コンサートプログラム

ベートーヴェン：6つのバガテル 作品126

シューベルト：3つの小品 D946より第2、第3

シューマン：子どものアルバムより 抜粋

ダイアン ラビー：ピアノソナタ第4番

～アンデルセン先生に捧ぐ～

## ◆教室内でいたづらをしないでください

先日、「ヘンデルはうす」で、心ないいたづらがあり、スタッフ一同、心を痛めております。

くつをかくす、ピアノの鍵盤に水のりをぬる、落書きをする、先生の楽譜を汚すなど、内容が子どものいたづらの域をこえているように思い、たいへん残念です。

またくつがなくなって、たいへんご迷惑をおかけしましたご家族の方々には、本当に申し訳なく思っています。

長年、一音会では、このようないたづらはほとんど見られませんでした。一音会にお通いの生徒さんの礼儀正しさは、教室の誇りでもありました。

きっと魔が差したのだと思います。今ごろ、深く後悔していらっしやると信じます。



\*\*\*\*\*

スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)

電話：03-3954-9999

\* お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後7時半～9時半です。ただし、レッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\* ご質問は、多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。